



河海抄

同 為 蒙 上
十三

利/2
1272
13

和語例

日本紀才一才二 祿代上下 くらかなわ能才又
くらわ世のよくらあふ下 十二ふゆつらと十三 日下
才とくくの上才又日下

和漢書籍上下とてい何何女を中し作者く然り上下と
くらりもあり後人の追まらるる礼記乃曲礼下後分
く檀弓上下の礼者多きい原曲礼才一巻乃中に上下と
檀弓も才二とととと才二と下ととと下とととと
からゆえい一巻とととととととととととととととととと
三正云鄭月録云義周前篇以曾采繁多取ら上下二卷
又才二巻上下とととととととととととととととととと
朱雀院代りありとととととととととととととととととと

藤妻葉よ六條院よ新幸ありとととと

あつとととととととととととととととととと
霊運當遷 伊特再尋

くらくらとととととととととととととととととと

皇女楊源氏姓例

醍醐天皇の女貞姫 三位下 潔姫 三位 全姫 尚侍 吾姫

上皇人弘仁五年八月八日 勅楊源氏姓

醍醐天皇の女源朝臣益子源約臣安子醍醐天皇女御正

三位源朝臣和子 水書勅字安院皇女一人楊源氏

ゆれとたのむくけめく

他人のゆくらたららるるたのむくけめくゆくらあり

ゆくらありてゆくらありて

孝元王礼云天曆六年正月十日太上天皇遷御仁

和与院康子内親王所叙也去三月十日所出家

ゆくらありてゆくらありてゆくらありて

老のまはらぬあつたりのうらやまのふしあはれは

さうさう人々も身も心もあはれまはらぬさうさうさうさう
さうさう人々も身も心もあはれまはらぬさうさうさうさう

眼張怒事之勝斗

こみみのあはれに

古今人のあはれにわらひ思ふにさうさうさうさう
こみみのあはれに

有妻兼春に六條院へ行幸ありしに秋三月廿九日
ありくは秋とあはれ

とゆりつりゆく わらわらしてさうさうさう

六條院の御出のえのこも 女御遣之也

六條院七つらあはれ御出のえのこも

六條院の御出のえのこも 女御遣之也

昌泰三年三月任冬後 廿一 安和元年三月廿六日

次子 是さくはのあはれ

北のあはれさうさう あはれさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさう

さうさうの御出のえのこも

あはれさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あはれさうさうさうさうさうさうさうさう

あはれさうさうさうさうさうさうさうさう

いふをくくめり 周易に君子以教族 タクイアラステ 辨物

毛詩曰窈窕淑女君子好仇 注曰窈窕幽閑也淑女

仇匹也古妃多困睡之徒是幽閑貞吉之語女曰為君子

好匹也

志らくし 云々 シカクシウ 日本記

いふ人のふたつめく 平 切顔云也 利也 易也

あさやれちとあさ

いふとも老とふねふまを其のかりくいふ事いふこと

ふはりのふのいふこといふこといふこといふこといふこと

孟子曰女子生而孤者之有父母也人皆謂之曰父母

母之命操物言瀆穴隙相窺除穢おは列父母國人皆

縁之

白氏文集 妻言癡女人家女慎勿將才怪許人升庭門浪瓶止媿毒也

家司

女退成人事

いふかゆらるるえいふかゆらるるえいふかゆらるるえ

望之也天皇選解未得と大政大臣三位在原下良房

初あし時天皇憐之凡標起偏殊勅嫁之

は康子内親王嫁九條右近お生果院太政大臣云李

あま シカクシウ 琵琶川 恨可

とらけいめらるるあまふれとあまふれとあまふれと

かひてらけいめらるるあまふれとあまふれとあまふれと

あまふれとあまふれと

あまふれとあまふれとあまふれとあまふれと

あまふれとあまふれとあまふれとあまふれと

あまふれとあまふれとあまふれとあまふれと

とくは後...
...
...

李刀五記云天仁六年八月廿七日太上天皇御乳母加賀合殿

告送云院御乳母重信人申遷之宣之由去月一日未二

条院依物云云西月外東内之去廿七日八日御乳母危去古日映

以後頗平服之六日後、夜上皇御乳母萬十三日映上皇御乳

良久之入和院之信告御乳母重信申刻至未日十時病筋入乃

御乳母之御乳云天仁六年十一月廿七日皇子内親王御服袴之

止秋結腰袴之胎物長山厨子不并備之朱漆卷之奉以銀三備

胎月小卷二本以銀土三代傳果之親王家秋鳥屏山等一腰書

法定書朱雀院每殿上男女官宴之傳信十余人召以殿南序

御酒者中文職御祿

此云...
...

朱雀院柏梁殿 東文倉奉曰後文乃素柏為漆也 柏殿云

亂者御在而也 凡九条右近曆記 二月之日侍朱雀院柏梁殿情涉書

者分一字無太上法皇製 探得信再序

菱原相 二月之日宴于池上之魚思古之曲水也攝柏梁以擬東亭

同記林之栽栢木皆是好果放示之乃詠凡月之因節而示也

信者分一字也

惜御書 云尔 謹序 詩略

御記曰康保貳年十月廿七日己未日御幸朱雀院入自承寧

坊就馬場殿 乘輿移柏殿 指延壽聖代之傍每秋奉以

院之柏殿燒之 後初之行事之去及新攝柏殿回老到作早加

後今日宴也 李刀五記云天仁九年七月十日太上天皇遷御朱雀院

庭後云及此傳後有子物未始在柏殿西面

とくは...
...

源藏...
...

...

此の... 太極の礼云 承平三年八月廿七日

文... 承平三年八月廿七日

成... 承平三年八月廿七日

百... 承平三年八月廿七日

と... 承平三年八月廿七日

ろ... 承平三年八月廿七日

遊... 承平三年八月廿七日

く... 承平三年八月廿七日

らん... 承平三年八月廿七日

云... 承平三年八月廿七日

ゆ... 承平三年八月廿七日

秋... 承平三年八月廿七日

め... 承平三年八月廿七日

こ... 承平三年八月廿七日

わ... 承平三年八月廿七日

集... 承平三年八月廿七日

山... 承平三年八月廿七日

延... 承平三年八月廿七日

梨... 承平三年八月廿七日

ゆ... 承平三年八月廿七日

御... 承平三年八月廿七日

ゆ... 承平三年八月廿七日

ゆ... 承平三年八月廿七日

ゆ... 承平三年八月廿七日

ゆ... 承平三年八月廿七日

ゆ... 承平三年八月廿七日

ゆ... 承平三年八月廿七日

太上天皇封の八百九十二の勅旨田の所

あつたわとがむけいゆつ

伊豫の地

我世といふうわとがむけいゆつ

人乃世れ老とくくめせり

と急り世れ老とくくめせり

つめ色のぬりしとくくめせり

らいてるらゆまのこくとくくめせり

ゆいせりくくとくくめせり

日月流造業不我^{トシ}与毛^{トシ}日月逝^{トシ}矣業不我^{トシ}与

中かすうら君ふきんせり

れあり此とくくめせり

内膳自為^{トシ}借依^{トシ}神膳^{トシ}之膳^{トシ}精^{トシ}也

飯のり也式後あり

此の文

後のぬきよきん

とくくめ人のくらとくくめ

人乃なるいづらゆつ

昔平云ねお侍女人減人君者

酒興已だる矣と司未氣取

神乃の先枝匹丈夫を以て

妻君云人字云曰孫孟子

人なり其人うらゆつ

うけりもなり

伊豫地神書文のゆめあり

よきぬれあり

あつたわ

六条院

此のよき人として... 飽あつたことあり

照宣云... 延長三年正月廿六日... 約為原約信...

みふく... 瑞流

正月廿六日の... 延長三年正月廿六日

延長三年正月廿六日... 延長三年正月廿六日... 延長三年正月廿六日

延長三年正月廿六日

十二種ある菜

若菜 菘菜 芥 蕨 薺 蓬 水蓼 苳苳

芝 菘 芥 蕨... 延長三年正月廿六日

七種 薺 薺 薺... 延長三年正月廿六日

延長三年正月廿六日... 延長三年正月廿六日

延長三年正月廿六日

延長三年正月廿六日

延長三年正月廿六日

又防壁 地有 南 脇息 扱と 付事 宗上三階 院と

質也と 侍子と したたりと 入りり 是の所 小のり 義炊

御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

帛 備 床 踏 布 同 御 記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

息一脚

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

階挿 双巻

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年 御記 延和六年

上東の流しり六十笑とるいんげん肉よりゆるはぬる食

太政大臣

采花物語

いそひつる人ありきはせぬのたまふとていそひつる
こまひつるといふらひふられてや乃のあまふとていそひつる
喜ばせのあまふとていそひつる
あひあつてさうあつとていそひつる
報復 新物 軍及 折枝物

延享十六年御祭礼記 諸中務の親王と申す親王大幸所
親王の酒より左衛門督友原の下等と申すの石杯属給はる杯
祝儀年月記 采女調和の采女終伏の采女又いそひつる
給はる感中統軍中監 志んぐの采女いそひつる采女あり

あひつる采女 物アリ

あひつる采女 物アリ

朱雀院の采女いそひつる采女いそひつる采女

あひつる采女いそひつる采女

延享十二年尚侍御祭礼記 今尚侍御祭礼記 今尚侍御祭礼記
親王御祭礼記 親王御祭礼記 親王御祭礼記

いそひつる采女いそひつる采女いそひつる采女

あひつる采女いそひつる采女いそひつる采女

いそひつる采女いそひつる采女いそひつる采女

和琴今 和名曰 目下 祝歌今 万葉集 信月 倭姫 三之 惠 史 記

いそひつる采女いそひつる采女いそひつる采女

いそひつる采女いそひつる采女いそひつる采女

晴智音曲不傳の譜

又晚職天皇御祭礼記 尚侍廣井女王 後中統軍中監

至深好神也... 於階下... 曲尾大臣... 日...

其曲小内... 又負親曹... 勅命... 抄...

又波磨木... 勅命... 抄... 抄...

仍看教... 勅命... 抄... 抄...

政名教... 勅命... 抄... 抄...

傳曲... 勅命... 抄... 抄...

後号庫... 勅命... 抄... 抄...

色云家... 勅命... 抄... 抄...

て... 勅命... 抄... 抄...

は... 勅命... 抄... 抄...

此... 勅命... 抄... 抄...

ら... 勅命... 抄... 抄...

中... 勅命... 抄... 抄...

親... 勅命... 抄... 抄...

と... 勅命... 抄... 抄...

〜凡の初集と云ふぬらう流のそにや書と云ふん
うらにさうしんくわらう〜

源氏院考以後の義の誰かゆは全書文句の也
あつたはさるあは院より始てゆりたてまらうゆす
色つきたるゆりゆ〜

信下乃礼室と近時くう〜車と〜礼也〜院中
乃美ゆは此後ある色〜ゆは院と人の

〜とらちいて早下志〜
信つ〜支願

筑あらく〜ゆは〜ゆは中とゆと念と成たゆゆ
費々集々女乃り〜ゆはゆりゆり

秋〜地の下葉はゆ〜ゆはゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

あまられ乃免ふゆさのゆりみ〜ゆ
あまられ乃免ゆ我ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

やんあやあや 是れ長乃ゆゆあやあや梅の花
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

西城陰をたけお衛敷勢前末らゆ
庚梅曉り
白乐天

と〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

袖〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

こら〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

梅と梅ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

家もれさかへぬよし

人たれり我らかられぬらん

ありしはありし

伊豫也 三つんさふんはさういふありしはありし

じうとせしありありぬれくくは

伊豫也 三つんさふんはさういふありしはありし

身いらし秋やさかへんらんらん

ふりもあなとの趣もろろりな秋のふもろ

上 白鳥のふりもろろりな秋のふもろ

高きまのさきまのふりもろろりな秋のふもろ

隆奥國のふりもろろりな秋のふもろ

ふりもろろりな秋のふもろ

ふりもろろりな秋のふもろ

東文の女御乃ら也右今十二乗者と書文は体不

ありとも書文は女御也

後撰 秋のふりもろろりな秋のふもろ

秋のふりもろろりな秋のふもろ

女三女御源氏文先帝の御上乃妹也重臣の

秋のふりもろろりな秋のふもろ

くろろりな秋のふもろ

延長十二年十月十日是日おのり始り約原下

李尸王記の延長元年九月廿日源正親

が延長元年二月廿日源正親の氏名六十

文後法皇の遺業所伝像を写素師金剛寺

延長七年九月十七日大信院息官人

之像を書昆布庭那像前安遷派業師像

天正三年

十八日大嘗会神嘗乃大納之七十候於此勝之乃勝也
法言爲七佛業所像字金字壽命御七十卷 上季ア記

此の御とらと此との
こゝろわつてえんかゝんぬや とみやうえん

最勝五經十卷題目 合光のうら勝五經

金對般若 一卷題目 合對般若波羅蜜經

壽命御 一卷題目 佛説一切如來金對壽命般若經

女房と云とみ乃日めく 御か美法系り也

一候と御との由らと想見のら也

とこもははく思わらうとれらとくこの其の舟

墨物机 唐經朱漆板

らんのかゝとく 法苑是也

うらけ山屏風でてく或名の文らんをけはく

はくしてまいの志た乃をせ

古今と ゆか 由た なま 定回 此大納般若系御下乃字候

よと季乃思ひあうらけ屏風書りはあくと

うらのたの系人の御 年法 此御らに 金の

御記と 延長十三年二月又日法系 昔は床子御末一刻 三の事

氣保保志御下 木楽系人系志生

まじさいつくもく やうをくまいて

百歳系 拍子二十 新系中曲 長林文横笛譜

是系七帖 今世系五帖 お入用 個子 階場 帝作

こゆ乃らん やう し く ま の ま つ て わ り の 跡

有文譜 首 御 曲 古 小 曲

御記 延長六年十月 先養百歳系次 三候 合 名 次 御 麻 草

りあわと 系乃 後 年 御 入 後 系 八

此禮是停心如左乞言已淨紀延長宣德二十二月十九日方計
 日本太上法皇皇息孫坊桑高秋系為七ヶ高南系七太也
^大 ^皇 ^大 ^皇 與福 元興 大安 仰彌經より布放用絹六百丈
^{茶師} ^{死大} ^{法隆寺} 布六十端と貞観十年を使帳と系宣十ヶも平城に
 十ヶも隆持御切法深寺列を敷架皇太右宣十第也
 宣十乃叙といふも公はくときくはり乃りといふも
 といぬりといふもくもいりなり紙

仁明天皇 宣十第 宣十一第 天丁 宣十二第

東三條院 宣十第

太右為定因 延和六年宣十第八月七月菟菜未也
 乃らにいぬらんすと 宣十第

大食よりとくとくみたらぬ女乃こくとくとくといふ
 の宣位ありといふにたらぬ女乃こくとくとくといふ

六條院乃れ宣し中宣乃をり也延和六條院と中宣

此宣よりとくとくみたらぬ女乃こくとくとくといふ

考むる類大右御紀 ^{兼平} 二年十二月 乃こくとくとくといふ

下りの女乃りとこ おおまこくとくとくといふ

石上地中い 二石深 韓侍 藤原氏 皇女

鵜取 五ヶ敷 藤原通天 延和通天

ひし物よりぬととのえせとらわぬにといふ

孝仲曰の君之政設如以訪又言わく和佐行乃悦史

記曰竟乃錫韋端衣与契乃築倉原市牛奉 ^天 ^帝

又曰帝討乃因而伯於臚里園友之徒患乃求者形

女氏表女濂戎之文之為徳九瀉及化皆物同殿破

且責仲之秋之計と大收曰此一物是心叔乃伯況といふ

年平個本孟子曰大丈夫有錫杖士不得受也其家刻
注九之門湯貨賜孔子七也也言饋孔子燕豚孔子之賜
之亡也言性也

此以下乃大夫所屬之制して去つて治せり云

大納之者信安仁

天壽三年十月七日依福祥大夫納日之夜青丹之苑

大納之者系之的

延享十九年八月十日依上十月十日之勅文常叙
元年六月十七日苑

取中納者之しをあらく

新設式ノ苑人以其治先書可造仕出調度未用送物
石門苑寮穀倉院

天皇御賀上皇御賀多也申文しけをさうらうに

大夫の中へ大納云しり中納之三人宰相五人

云つて大夫大政大臣大夫各一人大納云三人中納云三人奉設

八人見寛平遠祓 合十六人

とらりく乃さやう 取置

さうら乃さうとくに 宿後

御屏風に貼よら此出てうせ給うかからあわらうとたんよ

とらとら乃さゆり

絹の屏風と唐綾あくらうらうらうに式田うとらん為さ

新設式ノ母屋に月副水障子立障和の多流の屏風之帖出様

本立の屏風小安天會帖此幕可延長七年三月廿八日大右衛門紀日中

乃御賀とる幕中納はしうとらうらう人の屏風とらうに

う色よくせしとらうとら

拾遺集大夫納定國に十候内り屏風調へ給ふら

とらとら乃御賀とらとらとらとらとらとらとら

清涼殿墨物御子墨地

考及記

篋拍子篋

小才一階云墨地

才二階

大留名
大留監

玄上

大
換留

才三階筆 才四階 和琴 拍子

子也と月南小墨色一先羯鼓次大鼓次鉦鼓

六条の文人 六衛府 左大臣右大臣 左大臣右大臣

延和十六年二月七日御祭出祀日矣於法儀仍察物木川

御る十丈年後延和二年三月廿五日御祀於下起所後出の夜

身入作令早奉大臣稱陛下及作、即分御る二十也入月

日華門内南一刻

かろくしん 賀賀息 大食調曲拍子十六可原之及合拍子八十

延和六年并月十六年御祭出、賀賀息可兼承あはは

沙紀よみいかり

いとくろ地にとれらるとん一こを始つるに海少急とて去

らん乃んこ一しうふよしれらんよとさし

唐年初也 梁書曰為湯王太洵字仁信年七采来る祖を

湯王系之書也延和十六年御祭出、内内、地よ流砥

よ弦一畏琴、和琴者一而一投く又延和御祭出、横笛、琴、

和琴、次、才、一物、各、有、之、袋、笛、有、杖、杖、月、川、也、也、又、以、記

大后日記 永平四年十二月 御祭出、才、一、物、各、有、之、袋、笛、有、杖、杖、月、川、也、也、又、以、記

流のんこ一しうふよしれらんよとさし

とらめたかみちさやゆとさし

いじまじとりてたうはとさし、の、海、の、か、く、し、り、れ、ま、り

延和二年三月廿五日御祭出、祀、出、下、起、所、後、出、の、夜

察入自日記、月、夜、及、門、本、丸、お、立、所、的、前、内南一刻、逢、奏、舞

曲唐の舞各二曲

や、う、ろ、と、さ、し、
采、舞、物、上、本、内、院、行、舞、

さ、れ、の、前、を、さ、さ、せ、給、り、う、さ、前、て、

し、の、世、め、と、か、や、り、あ、ら、う、人、は、あ、ら、ん、約、り、て

婦人國是乃父乃兄 文選

名例律曰年七十以上六十以下犯流罪下收績八十以上
十歲年犯反逆殺人無死者上請九十上七歲以下隨
死罪不為刑疏云是也人皆少智力但是被者作死
皆以可犯之罪性可者命也

おとこみこみこみこみこみ

的之中文今上右六案院中女入為攝士女官后文胤

子 醍醐天皇母 内大臣之有女 母吏將大飲 休養女

あつさしんさしんさしんさしん

以養為日上下有白蒙米丸和改白拍蒙米後為之也九家

大臣お能日女房未各有白蒙唐衣今泉院 降延

ゆいふゆいゆいゆいゆいゆい

物沖湯及日射後七日每日在紀傳演書明使鳴鐘以下在

日記

少得伊半乳母大和系法法湯及依此女能於此也於年中

納云云菅原の女多仕沖對湯

七日養ららりしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

をとりしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

しゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

新條或之留后有ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

内親察之設武毅舍院食饌有賜祿設長食也女沖天衣養而七

和使有物縁女足指八十足和子綿二百長調布二百

瑞伴給物似也

左大臣 大臣 大納言 右大臣 右大臣 右大臣 右大臣

大史者系の臣師事 治平源の臣兼的 元源の臣雅信

後元者系の臣有物 一和唐子内親王女沖

海島と此中しきんぬれ、祖母看

即ち乃ち也といふ文とほりて了れりしうり給く

源氏院考乃らるるはもと松本中はあたるうらにみれ

る乃ら也これ物類中うらにみれり哉先順

うはくしん 電

ゆ光れりやうらうら 見三卷末通山 唐少子山 とみこはてしあありあは

太わ月日入るりやうらうら いてせとてうらうらうらうらうら

りりりあはれりてこれいりにあうら

拾遺紀云 帝信くを言日創生子帝日年代曆曰昔懷帝

時お趙劉猛字玄的張氏爰日入懷十月生猛

日月爰事

推古天皇元年 癸丑正月は與ると立二月辰と興猛耳天皇と立

て乃皇太子可枝連表傳お侍達之始 甲言天皇と建武武

寅之災と興隆してちと覽遺六月十日有和沙爰也 乙止爰冠

と爰給く 丙言乃信取れり 丁由と大室建武の 戊言あはれ給は

平日月輪と爰とて光の 己言あはれ給は黄金白銀七災 庚災

擲あり是皇太子御城と 辛言あはれ給は 壬言あはれ給は 癸言あはれ給は

二之災と興隆 甲天照之神と崇奉なり 乙言あはれ給は 丙言あはれ給は

和也 丁言あはれ給は 戊言あはれ給は 己言あはれ給は 庚言あはれ給は

讀の神の首系 辛言あはれ給は 壬言あはれ給は 癸言あはれ給は 甲言あはれ給は

身考 乙言あはれ給は 丙言あはれ給は 丁言あはれ給は 戊言あはれ給は

也 己言あはれ給は 庚言あはれ給は 辛言あはれ給は 壬言あはれ給は

ゆ 癸言あはれ給は 甲言あはれ給は 乙言あはれ給は 丙言あはれ給は

隨お吉吉也 丁言あはれ給は 戊言あはれ給は 己言あはれ給は

大讀曰九條 辛言あはれ給は 壬言あはれ給は 癸言あはれ給は 甲言あはれ給は

屋 乙言あはれ給は 丙言あはれ給は 丁言あはれ給は 戊言あはれ給は

此節より後... 女子... 改政... 治政... 治政... 治政...

周礼... 漢書... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

國母

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰... 漢書曰...

安徳公は名残は所をらん力のなき小僧封のうら
いふればまはく海の中根くわき放

茂徳も小仇虎身と施し給へん様

身とそとてふよ入り我も是の海からえおどそを

くもるるみねよん妙りよ

かむけり留りわきて 群いふぬ中也

ふらけこみの乃ぎくと見ぬと海ついでわ

田子の乃ぎもあつめありとてはひこひさつらうと

かむの乃ぎとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうと

つとた乃ぎとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうと

なまきり 吾在臺麓山に成るに滅せし給へんことを

信ふ滅せし説きしり也もこつていんは留めり也は留め

系ぬ初畫火典と説也

より乃ぎとてはひこひさつらうと

きつらひかまきりこひさつらうとてはひこひさつらうと

か乃きんそんせつとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうと

やまきりつとまほりかきりつとまほりかきりつとまほりかきりつと

くさくさいあこり

忠入民乃相門征伐乃大將軍よりらるに地貴相ありむり

時馬快云類一こひさつらうとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうと

大原お刑乃類一こひさつらうとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうと

あれちやなれはとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうと

大原おおあてまきりて各家は春架となりまきりあ

ゆりこまよとあこりてまきりてまきりてまきりてまきりてまきりてまきりて

血いてこひさつらうとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうとてはひこひさつらうと

かきりてまきりてまきりてまきりてまきりてまきりてまきりてまきりてまきりて

家入侍もさうごまけるは見えな

望まきく低

くくもくはく

くらのそなたのまことまうりりし 福北

能懐改所うくられんは格よこておしるのすうお給

奥入侍もは後此方院扱ふも誰説か九信も給

奥人

はつりくあうりては

劉向列孫曰疏鞠も侍も英帝も作武日記戦国時紀英

帝疏鞠も珠也以孫氏古名も也今軍士之事侍使疏

鞠も書た入部 元興ちかるは奥もよ大さの樹木あり

あれとかりしとて天智天皇内大臣源良入麻あては

鞠ありりり延喜元年三月廿日礼儀改後給るあ合給

疏鞠覽く同五月廿日仁壽天皇疏鞠五月廿日亦あ十二

奥も疏鞠奥

けくしり 死乃本ももりあうももさ乃けよ

あうりあうりくくくあうりあうり

的借目も冠額扱わゆは厚習も又任 是白 詞詠

みるみるまふあかのりめ

中階 先師末勅系極厚の首階の百あく見能ニ多ク階

死みりりくくくあうりあうりあうりあうり

吹きもくくあうりあうりあうりあうりあうり

落れ後落凡れ後 ミナリカニ 麻

くくあうりあうりあうりあうりあうり

日向 毎礼もも祭も喜礼もあうりあうりあうりあうり

拾遺もあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

徳宣

いづくはるこも
後撰のあはれいさかきか人のあはれいさかきか
あさつらるるつらとと

後人の言

祇を乃そせいほつら海をらふかあゆいほち
喜れ島とほ生れあまの喜れなれて行高こり
ふ也れさとほはらぬじまにほは喜れらるる旅は
よぬとくゆり也

か神 野と東 猶似虎う小徳捕鼠の糧

青苗 利久松古可

はひみもらひあかきやうれ物と也 棧餅

うか上 圃ゆつた大石とくゆりあはらるるみさつこい
ららるるもりゆつた大石のせがみのわらあか
もあわちたるとあわ

ねららとれらうみ 由か月喜也

りえ乃をせうとつとつとくゆん

久るは月のうつとつとつとくゆん
こへあやうとつとつとくゆん

みふ本よ終るうつとつとつとくゆん

カゴトリ

果をの 武、兵をの果也、兵をの果也、一石也

百人丸

あさつとめさるるつとつとつとくゆん

雄略天皇御内務作国つとつとつとくゆん
婦子とあつとつとつとつとくゆん

ふとあ死らるるあはれとつとつとくゆん
こりゆいへららつとつとつとくゆん

若痛

ふとあ死らるるあはれとつとつとくゆん
喜在深忘人未識 長服也

せよさうらぬのみはるるをいひかしてゆめ

みづらうらうらふりしを御懐しせしていふありけり

乃重なるうらうらむも無任武重二月十六日申す高系御願

おせあつくし寄るうらうらむも無任武重二月十六日申す高系御願

あやうらうらむも無任武重二月十六日申す高系御願

みづらうらうらむも無任武重二月十六日申す高系御願

まのりうらう 例の書也

はまのりうらう 義孝集

はまのりうらう 義孝集

はまのりうらう 義孝集

はまのりうらう 義孝集

はまのりうらう 義孝集

はまのりうらう 義孝集

若菜下

若菜一石を給ふるにけり系とふありけりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

いふんれりいふんれりいふんれり

三月十六日殿上法村念付事

此後的射のありあけありあけ

左大乃大乃乃乃のありあけありあけ

歩射 陽射 歩射

李太尉歩射は七人歩射の先飲も射の射也
歩射か急由毒 今東村の志的る年

ふかふかふかふかのありあけありあけ

弓三のありあけありあけ

死乃のありあけありあけ

歩射のありあけありあけ

西文抄緒弓のありあけありあけ

延喜元年中文被あ女装

やあれのありあけありあけ

史記のありあけありあけ

人あつんはつん

古人のありあけありあけ

あつんはつん

東文女之文女

寛平のありあけありあけ

武源のありあけありあけ

皆深のありあけありあけ

録

乃乃

的射

陽射

歩射

急由毒

三

緒弓

緒弓

自教

延喜

延喜元年

三

啓

乃乃

冷泉

寛平

十二月

朕

御

白

藤

武源

下

精

徳

満

未

朝

皆深

是

也

け

徳

深

水

尺有寸二分七釐寸七厘也小如指粒之仰也長加環弓服
精晶實如針芒亂眩每得如望如起之不搖也伏
卧時固月之入是尾宛如握中之玄璧也其步因寐寤
不妄言亦恰如息上之黑電性如乃川暗合五禽也位
以尾蓋地之曲厚有脊之二尺許毛又脫澤蓋由足平
亦能捕收鼠槐於化猫先帝宅殿教之後錫之干朕
仁德長五年于今每旦始以乳粥宜膏取材結
翹榭滋同先帝所錫以敬地神也信也懷育耳仍曰
汝猫含陰陽之字備支文敷之必有人寧無我乎
猫乃飲也舉首仰觀吾顏以咽心盈腔口不結之

之乃也しう一乃らりりやと

和康

之乃也しう一乃らりりやと

大みやの 式乃文 是上又

と乃 急蒸 曲礼 取地尾 宛字

由乃見しれくわふはせ始て十八年あるせりつと云と
ちり始くさみこし候しゆと

仁乃可也 治十七年 承和十七 嘉祥三

十八年めく廿也、也始く、多新帝始く、と云と

治十八年 是貞親

仁德嗣例

朱雀院 昌子内親王 後一条院 章子内親王

おりりやと始く、ありく、あはりり、廿也、と云と

後一条院 延和御所

と云と始く、ありと云と、あはり、と云と

東院後紀、王莽居椅子、字海莽、莽海、道為、淵、
友人、之、墨、地、美、之、信、乃、及、爰、人、民、冠、掛、東、門、之、

後漢書趙苞有字子康壯河人掛冠避世橫東

陶弘景林氏門掛冠去

色如... 乃... 氏... 人の... 乃... 氏...

左大... 乃... 氏... 乃... 氏...

栗田... 乃... 氏... 乃... 氏...

源氏乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

兼... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

冷泉院 又秋也南 二葉水 堀川也 又文也所

世次 乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

と... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

加... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

乃... 乃... 氏... 乃... 氏...

多岐 多岐 多岐

うらあきそるるをうらうらにうつみとせむはむとふのうらうらに

林系は花をてめて拍子とてのうらうらに

山あひよとれる竹のゆいひ藍 小島也

とと久しうらうらとて

秋子方拾遺 ふ ちうらうらにねくくるとききいふせむらふにふらふじ

ゆかゆかちうらうらとて色乃すむむとてかきくはえんらちの

袖とみんくみとてかきくうらうらにふらふとあはれはは乃

いとちうらうらにやとてゆらうらに

萩挿心事 人共のうらとて常と林と物也但信若るの林系の感

はがしわと物とてかきくうらうらと

右年唯安堂上とて右眼不見の事 白氏文集

ふらふらあらん乃ちうらうらとてのうらうら言はれとてゆらうら

ちうらうらとてゆらうらとてゆらうらとてゆらうらとてゆらうら

右

林人乃てかきくうらとて林系にゆらうらとてかきくうらとて

浪起兼田乃夏河苑同月令不依也 射君琴 中島也

と東古人尺裁は乃ちゆらうらとて野おとゆらうらとて

とゆらうらとてゆらうらとてゆらうらとて

末物か かきくうらとてゆらうらとてゆらうらとてゆらうらとて

小野氏系也 管物官 家守男系後大母承和六年

配流臣波國个取末文字士刑初太史七年初百返八年

後正五位下五年正月任春深月二年正深正大御仁奇

三年薨 五十七 長六尺二寸也 破軍星也

とゆらうらとて 祝子

とゆらうらとてゆらうらとてゆらうらとてゆらうらとて

十二月十日終令食事歿

冬此月人よりむいぬくは

枕蓆子と日向す物とく乃月夜とあらん也

女切系ん試せん

左傳裏二曰鄭人終焉侯以女未焉侯示半錫魏絳

史記曰孔子在魯人懼梨鉏乃送魯國中女未好青八

十人由祀天信三年十月十九日石曰者坊校廿人令奏深

竹

あ中のかさりめく

尺五位紫木也高秋事也高碗是茶梳名之云

似る物也 東也襖子丸正十三年正月十日踏方所

記之并以給御年人給御石人死人木給襖子と

うらりかしくあつて一 紫木はうらりかしくあつて

色はかり仍らとてくありつるいぬは襖也

あとおやち地乃くこ

万葉あとおやちありあつてくはくはくあつてく

一説 涙書 アラニ うらの物涙書り祭志とくあつてあつて柳

こころこころり

あむられやろ 紺地袋

うらいとらふはに志りへく

古今死乃公風のむらにく三や書ゆらふ志る人あふる

鶯於流川末花下茶色拍面生あ辺

二越うらりくうらりくうらりく

冬経 筆洞子結也双洞以之為盤傍洞以五葉吹り也

これあいのさむらうらりくははとくさあつてあつて

うらりかしくあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あらしとらふも鴈乃ら也或も世と祝言古才こふは使
乞いこもここえんらあり此物使人乃あふ鴈よつる
ああまらるる

二月乃あは十日よりあをせこのよりいふよりいふ
らんらんらん

白雲飛盤空排地緑絲於弱ら勝言柳氏文集 家記

小舟乃乃看いこくと物わてよあま先く二月

奥平親玉集

言風くせあまの柳乃るよりて物を背ふはつ舟

こらにいぬてもあは物らわとて物らん

橋らゆいり物うとまらあはるま本物あはら

八月乃乃死らる家の死ももくくくくお物らん

橋らみふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふ乃乃せわらさそくやーいこや

うちら乃乃月うらに橋つららららららららららら

去青一刻直子金花有信昔月有信秋後橋

三卷考細く秋干後為秋使後東坡

女は春とあはれわらうら人のつらとこ物らん

女感陽気春思男感陰気秋思女毛物

あふ一人乃乃死らるららららららららららららら

しうらららららららららららららららららららら

色はあはれ物とてつらと書にらららららららららら

曲 呂ハ喜乃あはれ秋のあはれとみえ

いこまらららら

乃あはれららら上代

あはれららら

ふんたのよとふたのあつとふたのうのふとふたのふん
お美し中琴酒家優文選紙

ふんたのよとふたのあつとふたのうのふとふたのふん
お難

佛智めとを神智とあり祖師徳住の人あり
ふんたのよとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

うとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

うとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

えのふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

物律調 琵琶 カサキ カサキ カサキ カサキ

ふんたのよとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

一弦胡琴 白氏六指才十八日茹者胡人其声兼吹一伏也

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

可袂系五六指るふたのあつとふたのうのふとふたのふん

五六の破六指乃破こつ也

と東の格 盤侍酒を先頭先下物

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

はわふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

ふとふたのあつとふたのうのふとふたのふん

一 存の今れらとお通次

男色わらわらしくはらりしやあまら

小町集

人志違ふ我昔人あまの夜はあまの夜は
とれてゆらぐさうくもはぬいといふは
うらあう人のうらあまの夜はあまの夜は
つらあまの夜は

小取小得福大取字大得福 孝仲公伝書通卷

帝危曰倭牛の鼎之志は喜能捕鼠之捏之使搏歎

一約く美ら能容いほ漢の流百石の車之流の舟

粟何列大也少く量軽北重く直

さうゆら人のいふさうさうさうさうさうさうさう

うさゆらりりりり

天下梁初章

孝子治日 柔之勝討

古柔書討 嵩光古己

天下柔書討 柔敬者久也

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

天武天皇十三年七月庚午 勅亡の位より下進位の上

服也淨信已上書為朱鏡位深赤相位深紫

勅位深緑勢位深緑進位深蒲蒲進位深高蒲文

武天皇大受元年三月甲午始依新令及副官右位

号く服副親王位已上位も位も位も位も位も位も位も

正二位以下位位三位以上名皆赤冠上階深純

下白階深純勅冠白階深緑緑勢冠四階深緑進冠

四階深緑進冠白階深緑皆深冠冠結帯白襪黑草屨

袴衣冠以上名皆自傳口袴勅下赤白襪拍木

正徳初、参儀を海客等と推中納言とみたり上古成

位よ志すといひぬ袍文し後深なり也彦の天正九年

二月任指中納言叙後之位元参儀正位下時九条右大臣

后送袍奇

後撰集

衣もいふも看るるも色もわくもくもたけの衣と云

乃方也 賢居純より叙三位着改袍よりみたり

あめはまのつらんとくらわ 撰抄 くらひとらふ也

廿二日しるさるあやうありくもわくはめらひるや

九条二条以後の業平此節トも通治しるも一叙展

撰らみつくくくくから糸うたもと糸ははらり

伝われくしるまの能はり身とほくくくわくも

ふれ中いふるもわくもわくも

くくもくついでりあつるものさしう

あはるれぬわくもくもくもくも

えいふいふる 辞イラ 遊仙窟

二月十余日くらのもの也

二月廿五日新内親王後夕 年中行す

ゆみふりしよつこゆりゆきもつらに

御成ゆつこ三尺 鬼字乃及らり 見書性抄

いふらりあみふらりに 深き 日記

はくししとらひらりてやもん

せんるこら也いもあもわかにぬりし日也いも志ら

ゆかりも

ろろ色くみてらりゆきもつらに

いふらりあみふらりに 深き 日記

遊仙窟 中十カラ

らんしこうく 一封紙
あつらうかちりりし

伊勢物語をいふにあらはれりあつらうかちりりし
曾保系
兵名が 万葉にあつらうかちりりし

あつらうかちりりし
小舟也 日記に転る曾保系

あつらうかちりりし

あつらうかちりりし
あつらうかちりりし

あつらうかちりりし
あつらうかちりりし

あつらうかちりりし
あつらうかちりりし

あつらうかちりりし

あつらうかちりりし
あつらうかちりりし
あつらうかちりりし
あつらうかちりりし

あつらうかちりりし

あつらうかちりりし
あつらうかちりりし
あつらうかちりりし

あつらうかちりりし
あつらうかちりりし
あつらうかちりりし

あつらうかちりりし

あつらうかちりりし
あつらうかちりりし
あつらうかちりりし

あつらうかちりりし
あつらうかちりりし
あつらうかちりりし

あつらうかちりりし

いふ女の世もよむらあせくを
世御女ありやうよあせくせあふり

とむせふたふらん也後よむせをくやあり
あうあせくあせくあせくあせくあり

回向文 秋の切道 善及秋一ゆふあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあせくあり

けいせき

東文切韻 櫻氏曰如ゆ二音天竺淨也けいせき垢衣又切道衣

線編の物法衣即ゆつて服也

あせくあせくあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあり

夕音大お母 葵上と云月也

龍朔式年六月詔奉をる毎八月六月後お母

以大宗文皇帝又法大后と云月あり也

あせくあせくあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあり

吹和名 醫家書あ脚氣痛 脚氣一又脚痛

あせくあせくあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあり

あせくあせくあせくあせくあせくあり

掛冠事五端

古文孝經曰七十衣錦綉衣無忘所自也車馬法嗣永使

子法監之別家立力、終之要紙也
後清廣法の沖史本史凡十月先由師太与近
勇上師の策然と安車傳子法

師古曰然と不可揚安車以策策然は然車之古紙也

中とさやいといとあひあひと

し日正用天又暖可徳技病皆来由 白氏文集

所由實丹日あり然とくはくくみのさひかり終るる

し日いあ紙文よとくくか

赤白様 蒲陶深下祝家 馬色 麴草也 穂草重

く人亦人々いあ白紫とさ

二十仙人誰得強合え殿百管弦声 章孝標

仙梅歌とつと梅ありとく

仙梅歌 大食 洞曲 拍子十七 舞 古来 小曲 菊文

横笛謡の性洞曲

去乃とありらく梅乃さりてさみういあひあひと

冬古るる春保表又れありのらるる中終りあ梅らり

あかしくさりるる心梅乃歌とくはとくさみ

昔るる交乃うしとく 五世ゆくは後とく也

とくいさささ

たつとくさりあはとくさりあひあひと

さ中乃ありをいさらにさらとくさりあひあひと

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

さるるいささささささささささささささささ

さささささささささささささささささささささ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

明が奉呪咀後一桑院とくささささささささささ

卷之五
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



